

# 小樽南ロータリークラブ会報

よいことのために  
手を取りあおう

Rotary



## 2025-2026年度R1第2510地区目標

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 会員増強         | 5. 女性会員増強      |
| 2. クラブ活性化       | 6. 会員研修充実      |
| 3. 奉仕活動推進       | 7. 紛争予防と平和推進   |
| 4. 若い世代とのつながり強化 | 8. ロータリー財団活動強化 |

My Rotary  
2510地区ホームページ  
ICT委員会Facebook  
各委員会へのメール



2025-2026年度地区活動方針  
Revival (リバイバル)  
～原点に立ち返り、未来への繁栄へ～

- 例会場：オーセントホテル小樽 ● 例会日：毎週金曜日 12時30分
- 事務局：〒047-0032小樽市稲穂2-15-1 (オーセントホテル内) TEL.0134-27-8123 FAX.0134-26-6935
- Club Homepage : URL <https://rid2510.org/otarusouth/>

1960年創立  
昭和35年2月5日

29

2026年5月22日発行  
通巻第3126号

- 今週来週
- 5月22日 ● 通常例会
  - 5月29日 ● 通常例会
- 週再来週
- 6月5日 ● 通常例会

■小樽市立小樽文学館 亀井志乃様 卓話

## ■ロータリーソング【四つのテスト】

### ■会長挨拶【佐藤友美会長】



亀井様、今日は小樽南ロータリークラブの例会にお越しいただき、誠にありがとうございます。この後のお話を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、年度末を過ぎ、4月も半ばとなりました。皆様お忙しい時期ということもあり、本日の例会は少し出席者が少なく、寂しく感じております。また、週末からあまり明るいニュースもなく、本日はどのようなお話をすればよいかと考えておりましたが、なかなか思い浮かびませんでした。

そのような中で、明るい話題として挙げるならば、今年は桜の開花がとても早いということでしょうか。先日、昨年末に私にとって一年で一番幸運だった出来事として当選した宏楽園の宿泊券を利用し、ロータリークラブの友人と二人で一泊させていただきました。

宿泊の際には庭園を散策させていただきましたが、桜の種類が大変多いことに驚きました。また、庭の手入れも非常に行き届いており、開花の時期がとても楽しみになりました。お話では、開花は23日頃とのことですので、今週末はまだ蕾の状態かもしれませんが、来週中には美しい桜を楽しめるのではないかと考えております。

これからの時期、一番の楽しみはやはり桜の開花です。その日を心待ちにしながら、日々を過ごしてまいりたいと思います。

それでは、本日の例会も皆様どうぞよろしくお願いいたします。

### ■幹事報告

#### ①今後の例会プログラム

日中の例会への出席が難しい若手新入会員に参加してもらうため、今期は炉辺会を2回に分けて夜間例会として開催いたします。

先輩会員の皆様におかれましては、当クラブやロータリーについてお話しいただく交流の機会としてご活用ください。

4月24日：日本橋

5月15日：オーセントホテル11階 カサブランカ

## ■出席報告

### 2026年4月17日

総会員数51名 欠席者数24名

井手、伊早坂、石上、桂、工藤、斎田、斎藤(英)、佐藤(公)、佐藤(勉)、鈴木、中井、馬場、吹田、堀内、前川、松尾、松浦、宮川、水谷、盛、山田(厚)、山田(佳)、三栖、山村

### ■委員会・同好会報告

#### 【石川副会長】

5月1日に山下会員と斎藤会員の出版記念祝賀会を開催する予定です。

案内はすでにメールでお送りしています。連休中ではありませんがぜひご調整のうえ、多くの皆様にご出席いただけますようお願いいたします。

### ■交通安全週間の啓発活動に参加

4月13日、小樽駅前交差点にて交通安全週間の啓発活動を実施。田中沙貴会員、見延会員、廣瀬会員、石川会員の4名が参加しました。



## 例会プログラム

### ■小樽市立文学館 亀井志乃様 卓話



本日は「日米文化の懸け橋として活躍した坂西志保」についてお話しいたします。当館では昨年の12月から今年の3月まで彼女の展覧会を開催しておりました。社会奉仕や国際貢献をされる皆様の団体において、多大な功績を残しながらも広くは知られていない彼女の生涯をご紹介できることを大変嬉しく思っております。

坂西志保は20代の頃まで小樽の塩谷村で過ごしました。伊藤整や小林多喜二も小樽ゆかりの作家としてよく話題に上りますが、彼らは生誕地が異なります。志保は紛れもなく小樽の塩谷生まれの人物です。彼女の学歴を振り返りますと、塩谷の小学校を卒業後、小樽初の女学校である静修女学校（桜陽高等学校の前身）に入学しました。その後、単身横浜へ渡り捜真女学校に入学し、大正7年に創立されたばかりの東京女子大学に入学しました。大正11年にはマサチューセッツ大学やウィートン大学に留学し、ミシガン大学でも学び、後に日本の国立国会図書館にあたる米国議会図書館に勤務することになります。

彼女の経歴には、特筆すべき三つの「初めて」という大きな話題があります。第一に、日本の女性として初めて選考試験の結果のみで海外留学を果たしました。当時は政府の直接選抜やミッション系大学からの派遣が主流でしたが、彼女はアメリカの婦人大学協会が日本で初開催した試験に合格し、自らの学力だけで留学を掴み取ったのです。第二に、日本の女性で初めて文系課程の博士号を取得しました。理系の女性博士が保井コノらわずか3名という時代に、昭和4年に彼女は伝統あるミシガン大学で文系の学位を取得しました。第三に、米国議会図書館の東洋学セクション新設時に、博士号を持ち高い翻訳能力を買われ、日本人初のスタッフとして抜擢されました。

昭和13年、彼女はアジア部門日本課の初代責任者に就任しました。日中戦争が激化し、アメリカ国内でも日本への風当たりが強まる困難な時期でした。その中で彼女は日本文化の理解促進に尽力します。特筆すべきは、彼女の発案による4000冊の日本の図書に乗せた移動図書館（ブックモビル）の実現です。自ら大きな車を運転して各大学を巡り、歴史的な資料を直接展示して回りました。また、石川啄木や与謝野晶子の短歌を翻訳したのも彼女が初めてです。シリーズ化する予定でしたが戦争により挫折しました。さらに、狂言の台本を翻訳し、日本の庶民の娯楽であるドラマの面白さを紹介するなど、大活躍を見せました。

しかし真珠湾攻撃の当日、彼女はFBIにスパイ容疑で連行されます。職務上、日本の政府高官とも接触があったため疑われたのです。全財産を没収されたうえで日本

へ強制送還され、帰国後は外務省の嘱託となりますが、軍部からは敵意を向けられました。「日本が勝てるわけがない」と弟に語ったことが敗戦思想の流布と見なされ、憲兵につきまといわれ、故郷に戻ることも難しく東京で過酷な生活を送りました。

敗戦後、彼女は決してへこむことなく精力的な活動を展開します。GHQから協力を要請された彼女の大きな仕事は、治安維持法など戦前の抑圧的な法律の英訳でした。アメリカ軍は同法を撤廃したいと考えていましたが、内容がわからなければ対処できません。彼女の翻訳は治安維持法の撤廃に大きく貢献しました。また、アメリカ民主主義の真髓を説く著書や、ケネディなどの偉人の伝記の翻訳も手がけました。名もなきアメリカの市井の人々がいかにか世の中のために貢献しているかを描いた子供向けの本を4冊執筆したことは、ロータリークラブの精神にも通じる素晴らしい功績です。小学校の社会科教科書の編集にも携わり、日米での著作は100冊を超えます。

彼女は第9回ユネスコ総会に日本政府代表顧問として出席したほか、内務省警察制度改革委員会委員、文部省科学振興委員会委員、財団法人国際文化会館評議員、選挙制度調査会委員、日本ユネスコ国内委員会委員、憲法調査会委員、国家公安委員会委員など、短期のものを含めると数え切れないほどの要職を歴任しました。これだけ多岐にわたる重要な役職に就いた事実は驚くべきことです。

昭和51年、彼女は神奈川県大磯の自宅で79歳の生涯を閉じました。国際文化会館理事長の松本重治によれば、彼女の死後、弟のヨハネから遺言の内容が伝えられました。それは、生涯質素な生活を送りながら蓄えた大きな遺産をすべて公益事業や教育費のために寄付するというものでした。さらに「記念碑など、自分の名前が残るようなものは一切断る」とはっきり記されていました。彼女の功績が広く知られていないのは、名を残すことを拒む遺言を周囲が守ったためでしょう。しかし現在、戦後から冷戦期の日米文化交流に寄与した人物として彼女を再評価し、伝記を執筆するプロジェクトが進んでおり、当館の展示にも大学の先生方が足を運んでくださいました。

塩谷にあった生家は質素な造りでしたが、彼女は両親が真心込めて作った作物を食べ、最高なものを与えられていたと語り、故郷での生活を生涯誇りに思っていました。現在、塩谷の国道沿いには「伊藤整・坂西志保ゆかりの地」という記念標柱が立っています。彼女の名が刻まれたものはこれだけだと思います。ちなみに、同じ塩谷育ちの9歳下の伊藤整とは子供時代に関わりはありませんでしたが、戦後、伊藤が日本近代文学館を設立する際、志保が行政との重要な橋渡し役を務めたことが伊藤の日記に記されています。

本日は、偉大な功績を残した坂西志保について皆様にお話しする機会をいただき、本当に嬉しく思っております。ご清聴ありがとうございました。

まごころ箱・・・いつも有難うございます！

佐藤（友）会員…亀井様卓話ありがとうございました。

廣瀬 会員…まごころ箱少ないので当分の間しばらく協力します。

石川 会員…仕事の為お先です！しつこいようですが出版記念宜しく願います。

**入金集計額** 令和7.7.1～令和8.4.17 (8,000円)

**合計574,000円**